

朔東から第1号 「何故、5師団は熊師団か？」 (H14/1/2 記)

平成14年、西暦1002年が明けた。考えてみると5師団管内が日本で一番初日の出が早い。正に日の出ずる処である。5師団は朔北の東、即ち朔東にある。富士紀行に続く第二段として、5師団が管轄している地域に関する様々な情報をお届けしたい。

その第1号は、熊師団に関する由来である。5師団着任当日、駐屯地に近づいた三叉路に、かなり大きな『第5師団』の案内看板が立っていた。見ると、緑色した北海道の下地に5師団のナンバーの5をローマ数字で「V」と北海道全部をカバーするかのように入れ、その『V』の中央に大きな熊(たぶんヒグマであろう)がでんと座っているのではないか。陸上自衛隊の師団、旅団等で〇〇部隊と明白に評されて、そして案内板にそのモチーフを採用している部隊を私は知らない。

何故、5師団が熊師団なのか。その経緯を見てみよう。旧帝国陸軍時代には、旭川には第七師団(「なな」師団とは呼ばないのだそうで、「しち」師団と呼ぶのが正しい。)が所在していた。小生もかつて旭川に勤務したことがあるが、今でも旭川には当時の面影が残っている。「師団通り」(某市長時代に改称されたようだが・・・)、当時の将校クラブもその使命を変えて今尚健在である。第七師団の影響が今尚色濃く残る旭川である。

● 第七師団の道東展開

昭和19年3月、大本営は、道東地域の急速防衛強化を企図し、当時旭川に所在していた第七師団に道東地域への展開を命じた。師団主力は、4月1日、師団司令部と歩兵第26連隊を帯広へ、歩兵第27連隊を釧路へ、歩兵28連隊を北見へ進出させ、4月中旬には、道東地域展開が終了した。展開した総兵力は、約2万人、馬約2000頭である。この時、部隊名を秘匿するため『熊』部隊と称した。

● 帯広地区展開状況等

総兵力約2,000名、

師団司令部(表札名:熊第九二〇〇部隊) 展開日:昭和19年4月8日

展開地:当初、十勝会館(帯広市西5条南10丁目帯広駅付近)

爾後:現陸上自衛隊 帯広駐屯地内(音楽隊演奏場付近)

● 歩兵第27連隊の釧路展開

釧路に展開した歩兵第27連隊の連隊本部は、陸自第27普通科連隊が駐屯する釧路駐屯地即ち天寧の丘である。

この丘で、50年に亘る歩兵27連隊の歴史を見続けた由緒ある連隊旗が奉焼され、天寧の丘には、27連隊ゆかりの人々によって記念碑が建立されている。

参考までに、旧陸軍の歩兵連隊と同一番号で、概ね同一の地域を担当している陸上自衛隊の普通科連隊は、僅か5連隊、34連隊、そして釧路27連隊であり、このうち第27連隊は、奇しくも全く同一場所に駐屯しているという幸運に恵まれた部隊である。